事例No.	2072
公表年度	R4
団体の属性	町村
団体名	福島県大玉村

事例区分	DX

タグ	・（行政改革）業務の効率化 ・人材確保・育成 ・ICT

事例種類	農林水産業

事例内容・タイトル

ICT技術を活用した獣害対策を実施

出典

地域社会のデジタル化に係る参考事例集【第2.0版】

92 ICT技術を活用した獣害対策を実施【福島県大玉村】

事業の概要

○　大玉村では、令和2年度から獣害(イノシシ)対策にICT技術を活用している。

○　イノシシによる生活環境被害等を防ぐためには、「捕獲」「生息環境管理」「被害防除」を組み合わせた地域ぐるみでの総合的な対策が重要になるが、村では、「被害防除」について、センサー付きのわなを導入することで、捕獲の効率化を図っている。

○　４m四方の囲いわなと映像をリアルタイムに配信する機器を組み合わせることで、タイミングを調整しながら一度に複数頭のイノシシを捕獲することができる。

　こうしたICTわなを導入することで、わなの見回りに係る猟友会等の負担軽減や錯誤捕獲の回避を図っている。



【参考情報】 人口：0.9万人
関連URL：https://www.vill.otama.fukushima.jp/

もっと知りたい！　担当者にインタビュー



取組の経緯・きっかけを教えてください。

（総務省）



本村ではイノシシ被害が頻繁に発生しており、対策の主軸として、大玉村鳥獣被害対策実施隊による有害捕獲活動が行われておりますが、隊員の高齢化や人材不足が否めない状況にあります。
しかし、今後も継続的な対策が必要となるため、捕獲効率向上や作業省力化を目的としての先進技術の導入から実証を行うという考えに至りました。

（大玉村）



導入又は実証時において、国又は都道府県の支援制度（人的支援や技術提供、補助金等）を活用しましたか？



左記のとおり、本事業では「捕獲」「生息環境管理」「被害防除」を組み合わせた対策を行うことが重要となり、ICTを活用した捕獲のみにとどまらず、一体的な侵入防止施設整備やそれに向けた集落環境診断・住民説明会等による合意形成、センサーカメラによる鳥獣の生息状況調査を業務委託により行うものであり、福島県イノシシ被害防止総合対策実証事業補助金を活用しました。



「ICTを活用した捕獲」を実施した経験をもとに、これからの対策方法について教えてください。



ICTを活用したことによりイノシシの「同時多頭捕獲」ができました。また、リアルタイムで視聴できることにより、目標とする個体を捕獲することができました。
　今回使用したわなは「４m四方の囲いわな」となっており、鉄パイプ等の支柱を組み合わせたものとなります。前述のとおり実施隊員は高齢の方が多いことから、設置から移動・撤去までが容易にできる大型のわなを確保できた場合には、再度ICTを活用した捕獲による効率的な捕獲活動を展開していきたいと考えております。

★担当：大玉村産業建設部 産業課★

令和3年度事業費　11,616千円
（うち、福島県イノシシ被害防止総合対策実証事業補助金
11,616千円）